

やんば1万本桜

～また訪れたい！！“水と桜の郷”長野原町をめざして～

プロジェクト計画書



平成26年12月3日

「やんば1万本桜」プロジェクト会議

1、はじめに



○日本人にとっての桜

桜は、私達日本人にとって特別な花といえます。

まだ暦が明確でなかった時代には、**桜の開花を田植えの時期の指標**とし、農業においてとても重要な役割を担っていました。

現代においては、学校などに多く桜が植えられていること、またその開花時期が年度変わりである4月頃が多いことから、**人生の転機**や**一期一会**を彩る花といわれています。

桜の名所は日本各地に存在しており、さらに最近では桜茶、桜の塩漬け、桜酒など**商品化**もされています。



2、計画の経緯

○桜による地域活性化

現在、長野原町には桜の名所といえる場所はありません。しかし、日本各地をはじめ群馬県内にも桜の名所は点在しており、毎年多くの人で賑わっています。

そこで、桜の持つ魅力を地域活性化に活かすことができるのではないかと考え、この長野原町でも桜の植樹計画が始まりました。

植樹した桜を住民の力で育てることで、地域の輪が広がる。木々を愛することでこの町の豊かな自然が守られる。そして、長野原町が新たな桜の名所となることで、多くの人を訪れる活気ある町づくりができる。

そんな将来像を思い浮かべながら、やんば1万本桜の植樹計画を進めています。

3、群馬県内の主な桜の名所

市町村	名称	桜の本数(種類)	2012年の来場者数
前橋市	赤城南面千本桜	約1000本(ソメイヨシノ)	約10万人
前橋市	前橋公園	約200本(ソメイヨシノ他)	不明
桐生市	桐生が岡公園	約430本(ソメイヨシノ)	約23万人
高崎市	観音山公園	約3000本(ソメイヨシノ、ヤマザクラほか)	約10万人
伊勢崎市	華蔵寺公園	約1000本(ソメイヨシノ他)	約65万人(花まつり期間中)
太田市	八瀬川「さくらプロムナード」	約150本(ソメイヨシノ)	約2万5000人
藤岡市	桜山公園	約1万本(フユザクラ、ソメイヨシノ)	約16万人
沼田市	沼田公園(沼田城址)	約210本(ヒガンザクラ、ソメイヨシノほか)	約6万5000人(メインイベント時約8000人)

<傾向>

(参照：MAPPLE観光ガイド)

- ・桜並木は、**公園**や**河川沿い**に多い。
- ・見頃期間中に何らかの**イベント**を行っている場所は、特に来場者が多い。
- ・**夜桜見物**ができるよう、**ライトアップ**をしている。
- ・多数の場所で**大きな駐車場**を構えており、イベント期間中は**有料**にしている。

4、桜の効果①

● 花見客の誘致



<福島県三春町 三春滝桜の事例>

- ・ 大正11年に国の天然記念物に指定。「日本三大桜」の1つといわれている。
- ・ 2012年4月6日～5月6日の来場者数は、**21万2619人**。
- ・ 夜間ライトアップやシャトルバス運行などで観光対策をしている。
- ・ **観桜料300円**を徴収し、総額は**約5540万円**になった（4月6日から5月1日までの間）。
- ・ 観桜料は、自動券売機を十数台導入したことで購入者の混雑緩和につながった。

4、桜の効果②

○桜関連商品の開発

＜山口県 酒造組合の事例＞

桜酵母

- ・近年日本人の食生活は大きく変化し、清酒を飲む人が少なくなり何か個性的な清酒が作りたいと考え、開発された。
- ・桜の酵母というめずらしい観点から注目を集め、マスコミにも取り上げられた。
- ・花見のシーズンに売り出し、桜を見物しながら桜の酒が飲めるという工夫もされている。
- ・清酒だけでなく、焼酎も開発されている。



5、基本構想

○ 基本理念

「また訪れたい！！“水と桜の郷” 長野原町」

自然豊かな長野原町は、春夏秋冬様々な表情を見せてくれる山々に囲まれた山里です。

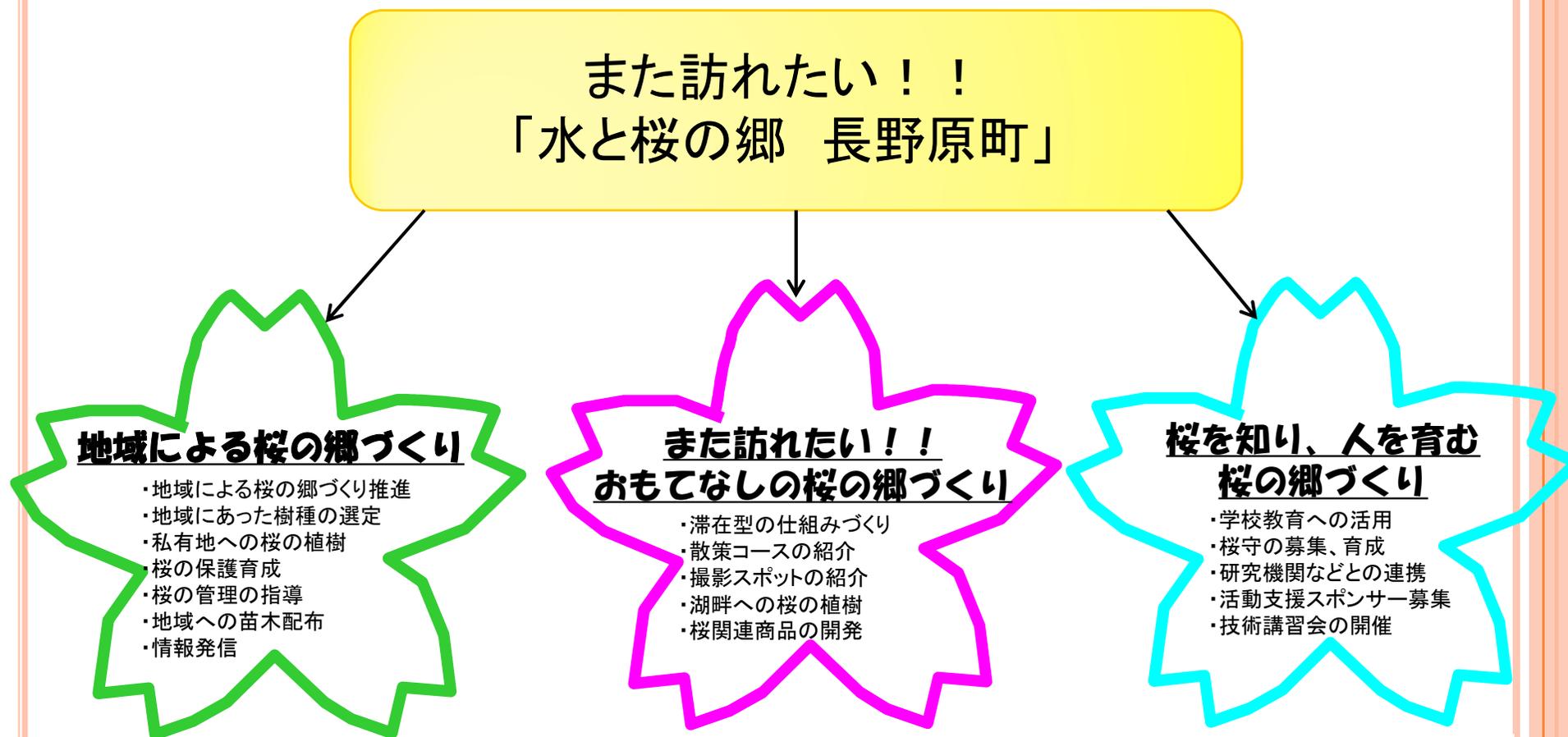
人々が、また訪れたいくなるような感動させるおもてなしの水と桜の郷「やんば1万本桜」から賑わいのまちづくりをめざします。

○ 基本方針

-  多くの人を訪れる桜の郷
-  滞在型観光の仕組みづくり
-  桜守・ボランティアガイドの育成

5、基本構想

○ 将来目標 体系図



5、基本構想

- 基本戦略 … 「また訪れたい」と感じてもらえるには？

【「桜」による集客の成功例に学ぶ】

- ①三春の滝桜 : 樹齢推定1,000年超に及ぶ巨木
(ベニシダレザクラ)
- ②弘前の桜 : 5月に満開となる大量の桜
(ソメイヨシノ等、約2,600本)
- ③高遠の桜 : この地にしか咲かない天下第一の桜
(コヒガンザクラ)



希少性がポイント

～ 他では見られないお花見スポットを提供 ～

- 1) 希有な樹種を選定 … 年に2度開花するシザクラなど
- 2) 水辺と一体となった桜ロード・桜ドームなど



6、概要

(1) また訪れたい！！おもてなしの桜の郷づくり

○ 目標

桜をきっかけにこの地を訪れて頂き、各地区の観光施設への誘客を促す。公的機関のホームページや各種イベントなどで、やんば1万本桜をPRし、撮影スポット・散策コースの紹介や桜関連商品の開発など、おもてなしを充実させることで来て頂いた方に満足してもらい、繰り返し訪れてもらえるような郷をめざす。

○ 課題と今後の取り組み

基本方針	課題	目標	今後の取り組み
滞在型の仕組み作り	・ノープラン旅行者の対策	・町内により長く、多くの人に滞在してもらうための魅力的な観光づくり	・温泉街や商店街でのおもてなしイベントの実施
散策コースの紹介	・PR方法とコースの安全確保	・さくら散策マップ作成 ・案内看板の設置など	・散策コースの捻出と看板、マップの作成
撮影スポットの紹介	・駐車場の確保 ・情報発信	・使いやすい駐車場の紹介 ・的確かつ広範な情報発信	・駐車場の場所を決定 ・ホームページやチラシ等の作成、配布
湖畔への桜の植樹	・具体的な植樹地の決定 ・代替地の環境に応じた植樹	・美しい景観と安全を守った植樹地	・湖畔となる土地の調査と植樹地図の作成 ・地権者や管理者との話し合い
桜関連商品の開発	・開発担当者の決定 ・商品化のために必要な品種の植樹 ・商品の宣伝方法	・画期的なオリジナル商品の開発 ・地産地消	・開発を任せる会社の選定 ・桜関連商品の市場調査

(2) 地域による桜の郷づくり

○ 目標

地域活性化のための活動の一環として、地域住民の自主的な桜の郷づくりを促す。町全体で同じ目標を持ち、1人1人が桜守として活動することで、活発な町をつくりコミュニティも広がる。住民の桜に対する愛着心が芽生えることで、長野原町の豊かな自然を地域ぐるみで維持できる環境をめざす。

○ 課題と今後の取り組み

基本方針	課題	目標	今後の取り組み
地域による桜の郷づくり推進	・町民に本計画の理念がまだ浸透していない	・本計画の理念を浸透させ、町民が自ら進んで楽しめる桜の郷づくりを進める	・魅力的なパンフレットの作成 ・地域住民への呼びかけ
地域にあった樹種の選定	・植栽地に合った品種の選定 (商品化のしやすさという観点も必要?)	・この土地に最適な品種を選定 ・なおかつ、商品化するための品種を植樹	・地域に合った品種の研究
私有地への桜の植樹	・私有地への植樹が必要になった際の対応	・地域住民の理解を得られた上での植樹	・地域住民への呼びかけ
桜の保護育成	・管理が滞っている町内の既存の桜の保護 ・植樹した桜の育成	・既存の木々を保護育成し、元々ある町内の自然を生かす ・桜の育成方法を学び地域全体で桜守として育てる	・保護育成マニュアルを作成し、地域住民に周知
桜の管理の指導	・桜を管理するための支援が必要 ・指導者の決定	・管理の支援を充実させ、桜守養成のための指導を行う	・指導者の決定、依頼 ・桜守養成講座の開催
地域への苗木配布	・苗木の収集方法	・さくらの会等による苗木配布の活用	・さくらの会等への苗木要請
情報発信	・情報発信方法の確立	・ホームページやチラシ等の作成	・ホームページ開設、チラシ作成、その他情報発信方法の発掘

(3) 桜を知り、人を育む桜の郷づくり

○ 目標

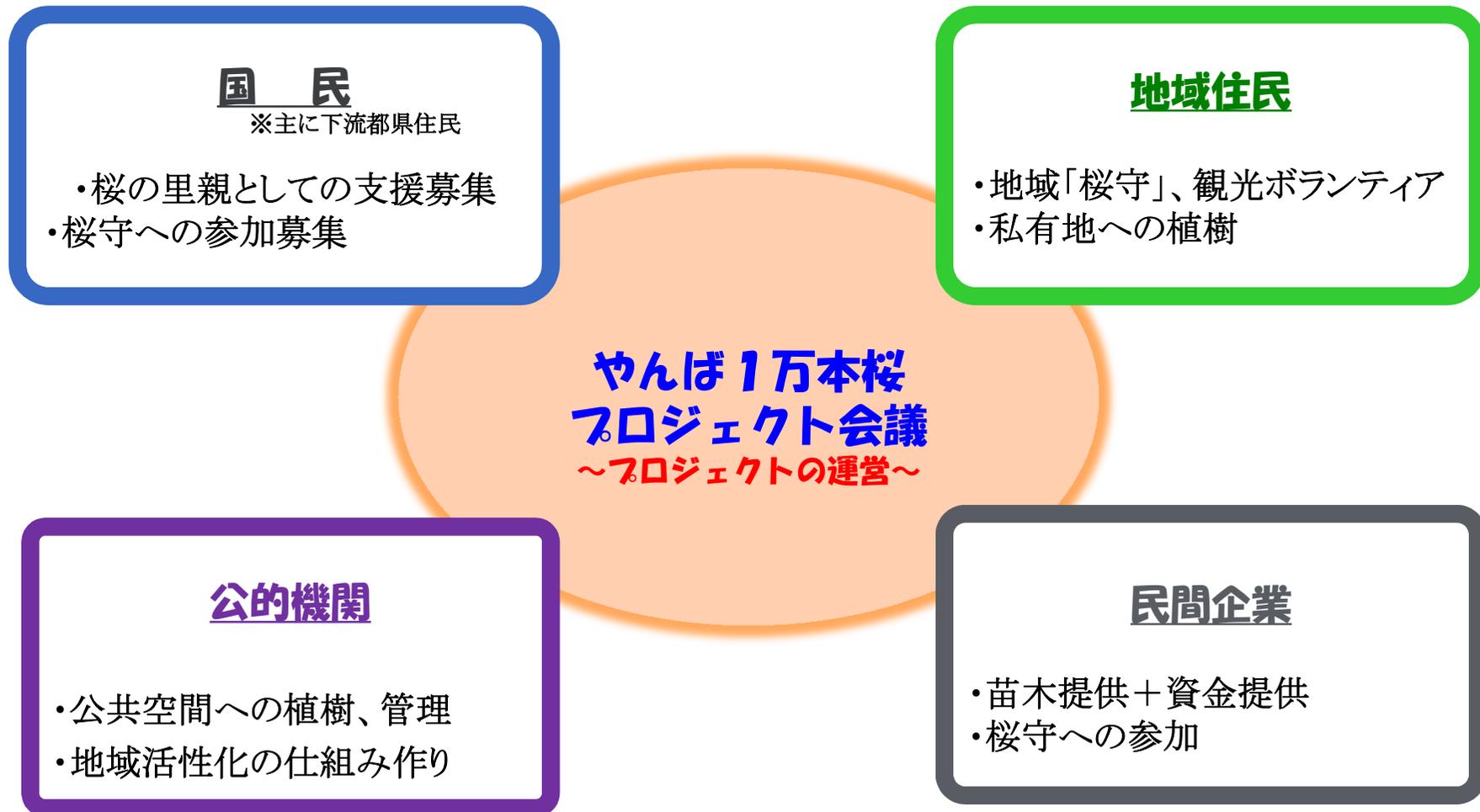
地域や学校において桜と接する機会を設けることで、桜に対する知識を深め、自然を育むとともに人も育てていくことを促す。桜の維持管理を行う桜守を地域住民の中から育成するために、講習会などを行い、知識を深めるための支援を充分に行う。

学校でも桜に触れる時間を作り、将来を担う子ども達が自然と触れあうことで心が豊かになり、また故郷の大切さを実感してくれるような町づくりをめざす。

○ 課題と今後の取り組み

基本方針	課題	目標	今後の取り組み
学校教育への活用	・どのように教育へ活用していくか。(学校側との協力)	・子ども達が自然と触れあうことで故郷の大切さを知る	・授業の中で、桜の育成体験等で自然と触れあう時間を設ける
桜守の募集、育成	・地域に密着し、責任を持って桜を保護育成する桜守の育成	・地域の中からリーダー的・指導的な役割を担う人材を育成するため「地域桜守」を育成	・定期的な講習会、勉強会の開催
研究機関などとの連携	・桜守育成や、苗木の収集の際に協力してもらえる機関との連携	・有識者による桜の育成、保護、管理について、専門的な観点から指導を行う	・研究機関による講習会を開催
活動支援スポンサー募集	・活動を支援してくれるスポンサーが必要	・支援してくれる団体と継続的な関係を築く	・支援の枠組みの策定
技術講習会の開催	・桜守が十分な知識を得るために、技術講習会を開催する	・地域住民が自ら桜を管理できる桜守になるように、充実した講習会を開催する	・指導者の決定 ・受講者の募集

7、運営体制図



※日本さくらの会、日本花の会などへの会員登録を行い積極的な支援が受けられるような環境を整える。

8、植樹計画

植樹箇所 目的に沿った選定方針に合致し、制約条件の無い場所を優先する。

観光

目的: 多くの人に訪れてもらい地域を活性化

選定方針

- ・ダム湖畔に咲く、美しい景観が楽しめる場所
- ・景色を見ながら散策できるコース沿い
- ・名所とできるような、まとめて植樹できる場所(オーナー制度植樹)
- ・ゆっくり立ち寄ってもらえるような、公園や平場のある場所(オーナー制度植樹)
- ・撮影スポットとなるような見晴らしの良い場所

条件

- ・管理の為に立入りが容易な場所であること
- ・将来的に建造物等を作る予定のないこと

選定



8、植樹計画

植樹箇所 目的に沿った選定方針に合致し、制約条件の無い場所を優先する。

住民参加

目的: 故郷に愛着を持ち、心豊かになる町作り

選定方針

- ・気楽に訪れ世話をし、愛着を持てる場所(自宅や地区内)
- ・子供たちが集まり、故郷の思い出となる場所(学校・地区公園等)

条件

- ・自宅等の私有地に植えてくれること
- ・将来的に建造物等を作る予定のないこと

選定



長期工程

- 代替地の造成や資金の確保等を考慮し、適切な進度で植樹できる長期工程を別途計画していく。

9、運営資金の確保

短期的資金源

- 里親の協賛金（オーナー制度）、企業からの支援金、各種団体からの補助金

長期的資金源

- 有料駐車場
- 観光収入（パッケージ旅行）
- 桜関連商品の売り上げの〇〇%

10、維持管理について

＜長野県 伊那市の事例＞

- 「市民が主役」の管理体制づくり



地元小学生による植栽



地区の住民による植栽



市民団体による桜めぐり

- 桜管理マニュアルを作成し、地域住民に周知する
- 伊那市認定の地域桜守養成講座を開催
- 適地適品種及び地域にあった品種の選定の研究

10、維持管理について②

○ 当計画での方針

